



「りんごかもしれない」が1位

全国の小学生が自分の一番好きな本に投票する、第4回「小学生がえらぶ!こどもの本総選挙」の結果が発表され、1位に輝いたのが、ヨシタケシンスケさんの絵本「りんごかもしれない」でした。約14万人が投票した中から1位に選ばれた「りんごかもしれない」は、2013年に発表されたそうです。絵本は帯西図書室にもありますので、すぐ手にして読んでみました。

ある男の子が、学校から帰って来て、テーブルの上のりんごを見て「りんごじゃないのかもしれない」と、りんごをあらゆる角度から想像しながら、「○○かもしれない」「△△かもしれない」とりんごから派生していく物を豊かに表現していくという内容です。絵もポップで子供たちの想像力を刺激するだろうなあと思いながら、ページをめくりました。また、ヨシタケさんの溢れ出るアイデアも素敵です。

ヨシタケさんは、「10年経っても読み続け、面白がり続けてくれていることに、僕自身がびっくりしています。先のことを考えるときに『かもしれない』という言葉を使いながら、楽しく過ごしてくれると嬉しいです。」とコメントを述べています。

小学生が選ぶこどもの絵本 ベスト5

- ①りんごかもしれない
(ヨシタケシンスケ/ブロンズ新社)
- ②おもしろい進化のふしぎ ざんねんないきもの事典
(今泉忠明/高橋書店)
- ③大ピンチずかん
(鈴木のりたけ/小学館)
- ④あるかしら書店
(ヨシタケシンスケ/ポプラ社)
- ⑤ふしぎ駄菓子屋 銭天堂
(廣嶋玲子/偕成社)

●ひこうきぐも✈ vol.26

マドリッドからいよいよ日本に帰ろうとしたとき、事件は起こりました。空港へ向かうために、私はタクシーを呼び、空港へと向かいました。そのタクシーの運転手は、始めはとても愛想がよかったので、私も片言の英語で会話を楽しみました。しばらくすると「あなた日本人?(英語で)」と聞かれたので、「そうですよ。」と答えると、運転手は平然とタクシーメーターを下げるのです。当然、タクシーメーターは料金を表示しなくなります。「あれー、何だかあやしいぞ。」と思った私は、とっさにペンをポケットから取り出し、タクシーの個人番号をメモしました。個人番号は、タクシー業界の個人登録番号みたいなもので、この番号から運転手の名前が分かるのです。このメモをとる作戦は、旅先でタクシーにぼったくられた経験のあるドイツ人から聞いたアイデアです。

空港に着くと、当たり前のような顔をして運転手は法外な値段を要求してくるのです。このときの私は、「この機会を逃すものか!」という正義感にかられて、当然その要求をはねつけました。しかし、相手はその道のプロというような顔をして、凄みをきかせてくるのです。「日本人をなめるなよー。」という沸々と湧き上がる怒りを抑え、わたしは、タクシーの個人登録番号のメモを水戸黄門の印籠よろしく、バーンと運転手の目の前に差し出しました。「○▼@□↓☆!!」自分も興奮して何を言っているのか分かりません。とにかく責めの一手段です。ジェスチャーで電話をかけるポーズをとり、「ポリス、ポリス」と連呼しました。するとどうでしょう、運転手は急に態度を変え、私に泣き付いて来るのです。わたしは当然無視し、空港出発口へ歩いていきます。しかし、空港内までずっと泣き付いてくるので、今思うと周囲の人の目には、私が地元タクシー運転手をいじめてるように映ったのかもしれない。ただ私としては、日本人だと分かると、カモにする行為だけは許せませんでした。これであの運転手も少しは懲りたかもしれませんね。あ、そうそう、あのときのタクシー料金は未払いのままです…。



※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは昨年度からの累積です。